

新『おとぎの国』完成!!

～4月16日(土)正午オープン!!～

14:00～ 飼育員のお話



＊遊歩道(木道)

動物舎の上にある遊歩道からは、木の上のレッサーパンダや岩山のヤギを観察できます。

＊レッサーパンダ舎
グラウンドには、メタセコイヤの大木があり、木登りの様子がご覧になれます。

＊ふれあいグラウンド
中に入ってヤギたちとふれあってみよう～仲良くなれるかな？

＊授乳室

＊ふれあいルーム
全天候型の室内ふれあいスペースです。詳細は掲示板又はホームページをご覧ください。

＊ペンギンプール
水中で泳いでる姿を見ることができるよう！

できごと

★昨年12月6日フンボルトペンギンが1羽ひ化しました。大人たちと羽の色が違うよ！見つけられるかな？



【2月23日撮影】



★1月7日パンケーキリクガメが1頭ひ化しました。生まれたときは、甲羅がまだ柔らかいです。

★1月9日ヤブイヌの赤ちゃんが生まれました！4頭生まれましたが、残念ながら1頭は亡くなり、残りの3頭は、人工保育で元気に成長しています。



【2月20日撮影】

誕生！



★3月12日アミメキリンの赤ちゃんが生まれました。「キヨミズ」と「ミライ」とって、3頭目の赤ちゃんです！

【3月15日撮影】

旅立ち



★ワオキツネザルの「バナナ」と「コモモ」が東武動物公園へ旅立ちました。賑やかだった動物舎が少し寂しくなりましたが、新しい場所でも元気でいてね！

★アムールトラの三兄弟のうち、最初に生まれた「アビ」が福山市立動物園へ旅立ちました。まだまだやんちゃですが、新しい仲間と仲良くしてほしいものです。



安らかに



★1月17日マンドリルのオス「マンゴロウ」が心不全のため亡くなりました。当園で生まれ、たくさんのお父さんとして、頑張ってくれました。今までありがとう！

寄付のお知らせ



ありがとうございました

国際ソナタ京都Ⅱクラブ様からベビーベッドを寄贈していただきました。

動物引っ越し大作戦!!

オランウータンのホップくんが類人猿舎に引っ越しました～



『麻酔をかけ、眠ったところで
みんなでよっこいしょ!』



『ホップをネットでくるみ
運び出します。』



『園内運搬車に乗せて
類人猿舎へ出発～』

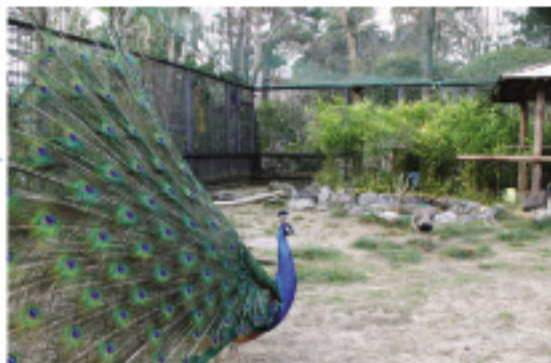


『新しい部屋の居心地はどうか?』

クジャクたちが鳥類舎のお隣へ引っ越しました～



『立派なオスの上尾筒(尾羽
の上の羽)は折れないよう
に運びましょう。』



『ちよっぴり狭くなっただけど
オスは頑張ってメスにラブ
コール』

ヤブイヌ一家が噴水池の横(園内中央)に引っ越しました～



『1頭ずつ網で捕まえます。』



『網のままケージに入れてリヤカーでお引っ越し。』



『広くなったグラウンドで親子仲良く暮らしています。穴を掘ったり、水に入ったり楽しそうです!』



『春には1月生まれの子どもたちもグラウンドで遊んでいるかな?』

おとぎの国のヤギとヒツジも新しい動物舎が出来るまでの間、他の動物舎で仮住まい…



『ヤギたちは、ベエ、ベエと大騒ぎ。』



『広いグラウンドでのんびりお昼寝タイムです。』



『雪の中引っ張られながらの引っ越しです。』



『おきさんとのふれあいがお休みの少し返座さうでした。』

200スポット 71

こんにちは。新人飼育員の米田弘樹です。

新人と言ってもついこの前まで会社で営業マンとして働いていました。どうしても動物に携わる仕事がしたくて転職を決意しました。もともと動物が好きで、大学では農学部を選択し畜産の勉強をしました。主にウシ、ヤギといった反芻(はんすう)動物の消化と彼らが食べる飼料の栄養素について学びました。ここで勉強したことが今の自分の礎になっています。飼育員という職業はなかなか募集も少なく狭き門だとよくいわれています。たくさんの動物たちに囲まれ仕事ができる日々本当に感謝したいと思います。

担当は爬虫類館の動物たちです。カメやイグアナやトカゲ、その他にもムササビやハリネズミといった夜行性の動物も担当しています。ちなみにヘビやワニや両生類は先輩飼育員の担当です。初め爬虫類担当と聞いて「えっ、爬虫類ってどういう動物?」「どうやってお世話するの?」「噛まれたりしないの?」と不安でした。約1年が経ち、日々の作業を通して少しずつ理解できるようになってきました。しかし、爬虫類は他の哺乳類や鳥類に比べて体調の変化に気付くのが難しい動物です。そのような中では飼育員の役割が重要になってきます。一日でも早く彼らの声に気付



いてあげられるように、今後も一層業務に励みたいと思います。

また、爬虫類は哺乳類に比べ苦手意識を持たれやすい動物です。実際私自身がそうでした。勝手な先入観でヘビやイグアナは危険だ、トカゲは気持ちが悪いといったように。私だけに限らずこういったお客様は多いと思います。今後は一人でも多くのお客様に爬虫類のことを知ってもらうため、館内の展示物の工夫やイベントでのPRなど積極的に行いたいと思っています。まだまだ至らない点も多いとは思いますが何卒よろしくお願ひします。

爬虫類が好きな方も、苦手な方もぜひ爬虫類館にお越しください。お待ちしております。

タンザニアの野生動物を訪ねて Part 2

『2010年8月撮影』



2009年と2010年に野生動物を訪ね、東アフリカの国、タンザニア連合共和国に行ってきたので報告します。

ミクミ国立公園編

ミクミ国立公園は、タンザニア最大の都市ダルエスサラームから車で3時間程とアクセスがよく気軽にサファリ・ツアーが体験できることから人気のある国立公園です。我々が訪れた8月は乾季だったため、動物の餌となる植物は少なく赤茶けた大地が

広がり、動物もまばらでしたが、キリン、シマウマ、ゾウ、ヌーなどの群れがサバンナの地平線の向こうから湖を目指して集まってくる様子はとても壮大で印象的でした。また、食事を終えたライオンの親子も間近で見ることができ、遠くでキリンがライオンの方を向いてじっと立っている様子には野生の緊張感がありました。

しかし一方で、手付かずの自然ではないということも実感しました。ゴンベ国立公園を訪れた際にも感じたことですが、国立公園のすぐ周辺には集落があり、野焼きが行われるなど、人の生活が動物の住む自然を侵食している現実。動物を保護する資金を得るために観光地化されている国立公園を目の当たりにし、衝撃と落胆を感じました。こういった自然環境の問題について実感できたことも今回の研修での貴重な経験です。(山本裕己 獣医・2010)

19年前の同時期に個人旅行で訪れたケニアと比べ、動物種の少なさ、動物密度の低さに愕然としました。ここ数年の異常気象でさらに降水量が減少し、草食獣の食べる餌が育たず、草食獣が減少すると食物連鎖の頂点に立つ肉食獣も姿を消す構図が、現実として目の前に広がっていました。真っ黒に野焼きされた大地を見ながら「今、自分達にできることは何?」と焦燥感に襲われたサファリ・ツアーでした。

(岡橋要 獣医・2009)

『2009年8月撮影』



定期購読を希望される方は、80円切手4枚(1年分)を同時に
京都市動物園までお申し込み下さい。

動物園だより No.156
発行所 京都市動物園
京都市左京区岡崎法勝寺町岡崎公園内 TEL075-(771)0210

文化市民局動物園 京都市印刷物 第23-0415号